

# 小学校国語教育における基礎的素養の考察（２） 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について①

鈴木 健一

The consideration of fundamental knowledge in the Japanese  
language education of an elementary school (2)  
About the vocabulary of the teaching materials  
related to a traditional language culture ①

Kenichi SUZUKI

前稿では、小学校教科書にどのような伝統的な言語文化に関わる教材が掲載されているかを調べ、低学年の昔話や神話、中学年の短歌や俳句とことわざ・慣用句・故事成語、そして高学年での古文や漢文の作品を一覧で示した。また、本学学生を対象に、それらの教材の認識度を調べ、課題を見出した。

本稿は、前稿で取り出した教材のうち小学校第1学年及び第2学年の教材を、第一段階として取り上げた。全教材から語彙を取り出して分類し、傾向をとらえた。その上で、小学校低学年の子どもたちの学習力との関わりを考え、併せて、指導者にとって必要なことや留意すべきことを明らかにしようと試みた。

## I 伝統的な言語文化に関わる教材について

### 1 教材の認識度調査

前年度の学校図書の教科書教材に対する認識度調査では、次のようなことが言えた。

- ・ 一般的に認識度の高かったのは、「ことわざ」「故事成語」「慣用句」であった。
- ・ 低かったものは、「俳句」「短歌」「文語詩」「漢詩」であった。
- ・ 「昔話」や「神話」は、作品によって分かれ、どちらとも言えないと判断できる。

この調査の後、数多く採用されている教材に範囲を広げての調査が一つの課題となった。この課題を解決するために、今年度は全5社のうちの3社以上で採られている教材について認識度を調査した。小学校教諭免許状取得を目指す学生の回答は、次のようであった。

25年度 調査 結果一覧 対象者 男子12名 女子30名 合計42名

1 昔話や神話

	ア よく知っている	イ 少しは知っている	ウ 題は知っている	エ 知らない
①「いなばの白うさぎ」	ア 6	イ 5	ウ 9	エ <u>22</u>
②「かさこじぞう」	ア 15	イ <u>18</u>	ウ 7	エ 2

2 俳句

	ア よく知っている	イ 少しは知っている	ウ 見たこと(聞いたこと)はある	エ 知らない
①「ふる池や 蛙飛びこむ 水の音」	ア <u>22</u>	イ 18	ウ 6	エ 1
②「夏河を 越すうれしさよ 手に草履」	ア 2	イ <u>15</u>	ウ 11	エ 13
③「名月を 取ってくれろと 泣く子かな」	ア 2	イ <u>21</u>	ウ 14	エ 5
④「閑かさや 岩にしみ入る 蟬の声」	ア 7	イ <u>17</u>	ウ 11	エ 7
⑤「菜の花や 月に東に 日は西に」	ア 1	イ 8	ウ 13	エ <u>20</u>
⑥「雪とけて 村いつばいの 子どもかな」	ア 1	イ 5	ウ 14	エ <u>22</u>
⑦「荒海や 佐渡によこたふ 天の河」	ア 0	イ 3	ウ 10	エ <u>29</u>
⑧「柿食へば 鐘が鳴るなり 法隆寺」	ア 4	イ <u>30</u>	ウ 6	エ 2

3 短歌

	ア よく知っている	イ 少しは知っている	ウ 見たこと(聞いたこと)はある	エ 知らない
①「田子の浦に うち出でて見れば 白妙の 富士の高嶺に 雪は降りつつ」	ア 3	イ <u>15</u>	ウ 10	エ 14
②「ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば ただ有明の 月ぞ残れる」	ア 0 無回答1	イ 7	ウ 12	エ <u>22</u>
③「天の原 ふりさけみれば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも」	ア 2 無回答1	イ 9	ウ 11	エ <u>19</u>
④「嵐吹く 三室の山の もみち葉は 竜田の川の 錦なりけり」	ア 0	イ 4	ウ 8	エ <u>30</u>
⑤「かすみ立つ ながき春日に 子どもらと てまりつきつつ この日暮らしつ」	ア 1	イ 4	ウ 8	エ <u>29</u>
⑥「久方の 光のどけき 春の日に しづ心なく 花の散るらむ」	ア 2	イ 3	ウ 7	エ <u>30</u>
⑦「春過ぎて 夏来にけらし 白妙の 衣ほすてふ 天の香具山」	ア 6	イ 14	ウ 6	エ <u>16</u>

小学校国語教育における基礎的素養の考察(2) 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について①

- ⑧「秋風に たなびく雲の 絶え間より  
もれ出づる月の 陰のさやけさ」      ア 0    イ 7    ウ 12    エ 23
- ⑨「君がため 春の野に出でて 若菜摘む  
わが衣手に 雪はふりつつ」      ア 1    イ 14    ウ 8    エ 19

4 ことわざ・慣用句・故事成語

(1) 故事成語

ア よく知っている    イ 少しは知っている    ウ 見たこと(聞いたこと)はある    エ 知らない

- ①「五十歩百歩」      ア 11    イ 19    ウ 11    エ 1
- ②「蛇足」      ア 21    イ 12    ウ 8    エ 1
- ③「漁夫の利」      ア 11    イ 15    ウ 11    エ 5

5 古文(作品の一部)・文語詩・漢詩

(1) 右ページに掲げたAからDまでの作品について答えてください。

(A:竹取物語冒頭部 B:枕草子冒頭部 C:平家物語冒頭部 D:漢詩「春暁」)

ア よく知っている    イ 少しは知っている    ウ 見たこと(聞いたこと)はある    エ 知らない

- A「今は昔、竹取のおきなという者…」      ア 28    イ 12    ウ 2    エ 0
- B「春はあけぼの。…」      ア 22    イ 16    ウ 4    エ 0
- C「祇園精舎の鐘の声…」      ア 24    イ 12    ウ 4    エ 0
- D「春眠暁を覚えず…」      ア 11    イ 7    ウ 16    エ 8

(2) 次の言葉

「故きを温ねて新しきを知る」      ア 14    イ 9    ウ 9    エ 10

6 次のお話を知っていますか。

ア よく知っている    イ 少しは知っている    ウ 見たこと(聞いたこと)はある    エ 知らない

「寿限無」      ア 17    イ 8    ウ 5    エ 12

この結果を、前年度の調査のように、認識度の高低という視点から整理してみる。(表1)

教 材	認識度
〔お話〕 2	
「いなばの白うさぎ」	低
「かさこじぞう」(昔話)	高
〔俳句〕 8	
「ふる池や蛙飛びこむ水の音」	高
「夏河を越すうれしさよ手に草履」	中
「名月を取つてくれろと泣く子かな」	中
「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」	中
「菜の花や月は東に日は西に」	低
「雪とけて村いつぱいの子どもかな」	低
「荒海や佐渡によこたふ天の河」	低
「柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺」	中
〔短歌〕 9	
「田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ」	中
「ほととぎす鳴きつる方をながむればただ有明の月ぞ残れる」	低
「天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山に出でし月かも」	低
「嵐吹く三室の山のもみち葉は竜田の川の錦なりけり」	低
「かすみ立つながき春日に子どもらとてまりつきつつこの日暮らしつ」	低
「久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ」	低
「春過ぎて夏来にけらし白妙の衣ほすてふ天の香久山」	低
「秋風にたなびく雲の絶え間よりもれ出づる月の陰のさやけさ」	低
「君がため春の野に出でて若菜摘むわが衣手に雪はふりつつ」	低
〔故事成語〕 3	
「五十歩百歩」	高
「蛇足」	高
「漁夫の利」	中
〔古文・漢文〕 4	
「今は昔、竹取のおきなという者…」	高
「春はあけぼの。…」	高
「祇園精舎の鐘の声…」	高
「春眠暁を覚えず…」	中
〔言葉〕 1	
「故きを温ねて新しきを知る」	高
〔落語〕 1	
「寿限無」	高

今年度の対象者は「いなばの白うさぎ」の認識度が低かったが、他の種類の教材では、傾向として昨年度と大きな違いは見られなかった。俳句や短歌に対する認識が低い<sup>1)</sup>のは今回も同様である。改めて学生指導の課題と考えたい。

## Ⅱ 語彙について

### 1 語彙の調査

#### (1) 対象

まず、第一段階として、第1学年及び第2学年の教材(のべ43教材)を対象にした<sup>2)</sup>。同名の教材であっても、作者が違っていると使われる言葉にも差異が出てくるため、確認する必要がある。

(例)「いなばの白うさぎ」に登場するのは、  
・「ワニ」(教育出版)、・「サメ」(三省堂)、・「わにぞめ」(東京書籍)  
「かさこじぞう」は同一の作者であり、表現に違いはない。

#### (2) 採取の方針

教材から語彙を取り出すにあたっては、次のようにした。

①固有名詞(人名,地名)は取らない。

(例)「ももたろう」「スサノオノミコト」「おのが島」「たかまのはら」など。

②助詞や助動詞は取らない。自立語のみとする。

(例)「となえながら」⇒「となえる」「安心だ」⇒「安心」

③活用のある語は、基本形に集約する。音便形も同様。

(例)「買わ」「買え」「買っ」⇒「買う」

④話し言葉や方言はそのまま取る。

(例)「ええ(=よい)」「どじょっこ(=どじょう)」など

⑤物語の結語もそのまま取る。

(例)「どっとはれ」など

⑥接頭辞や接尾辞が付いている場合も、別単語としてそのまま取り出す。

(例)「お むすび」「行き たがる」「サメ さん たち」「お じい さん」など

⑦数字が付いた語もそのまま取り出す。

(例)「一軒家」「十二番」など

⑧複合語は分けずにそのまま一語として取り出す。

(例)「いくじなし」「飛び下りる」など

⑨補助動詞や補助形容詞は、取り出さないで一般の動詞・形容詞に含めて考える。

(例)「むすんであげました」⇒「あげる」に含める。

(3) 分類の基準

分類は、阪本一郎の『新教育基本語彙』に拠った。同書では、小学校を低学年と高学年に分けて考えている。今回の学習指導要領の示している区分（2学年ずつ三つに区分）と違っているが、基準を示している希有の書であり、重なる部分も多いことから、傾向を探る上では大いに参考になるものであると考え、使用させていただいた。

同書の区分は、次のようになっている。A2よりはA1のほうが、というように、各段階とも数字が小さいものほど重要度が高いものである。

小学校低学年（1～3年）		小学校高学年（4～6年）		中学校	
A 1	2570 語	B 1	2364 語	C 1	2444 語
A 2	1730 語	B 2	1979 語	C 2	2344 語
		B 3	1600 語	C 3	2139 語
				C 4	2101 語

これによれば、小学校低学年の子どもたちに身につけさせるべきは、A段階の語彙ということになる。中でもA1段階の2570語は重要度が高いものとなる。

(4) 調査結果

調査結果は、次の表2のようであった。

ただし、一覧にまとめるにあたっては、手を加えた点がある。以下のようなことである。

- ①教材の中の語の表記は、低学年の教材であるために、多くのものがひらがな表記である。しかし、同音語や同訓語が存在するために意味の上で区別する必要がある語、漢字を使うことで意味が分かりやすくなる語もある。そのような語については、教材の中での表記にかかわらず、漢字を用いた。
- ②同じ表記になってしまうものがある場合、例えば、何かを指し示す代名詞の「それ」と掛け声を表す「それ」は同じ表記になってしまうので、後者に<感>と付記して感動詞の「それ」であることを示した。また、話し言葉に「ええ」があるが、掛け声や返事の「ええ」と区別するために「(=良い)」と意味を補足したが、同様の整理をしたものがある。

小学校第1学年及び第2学年の伝統的な言語文化に関する教材の語彙分類(表2)

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
あ	あいさつ 間 遭う 青い 赤い 明かり 上がる 明るい あくび 開ける 上げる あげる (=与える) あご 朝 浅い 足 あそこ 遊び あたたかい	ああ<感> あしもと あちこち あっ<感> あっち 雨戸 あれ<感>			あれよ <感>				あけび あっけに とられる	あいどり 青おに 青くん 赤おに 赤おにくん 赤おにさん 赤はだか 後 あと (=さらに) 洗い流す あずき<小豆は> あふれる

小学校国語教育における基礎的素養の考察(2) 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について①

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
あ	あたためる 頭 当たる 新しい 辺り 集まる 集める あてる 穴 あなた 兄 あの あばれる あびる あぶない 編む 雨 あやしい あやしむ 洗う あらそう 現れる ありがとう 或る 在る 歩く あれ あわせる あわてる 安心 あんな あんまり									あなたさま あまり 粟 安心する あっというま 歩き回る
	51個	7			1				2	18
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
い	いい いいえ 言いつける 言う 家 息 行く いくら いきおい いきなり いくつ いじめる いじわる いそがしい 急ぐ 板 痛い いたずら 一面に いつ 一緒 いったい 五つ いつも 糸 犬 今 芋 嫌 いよいよ 入れる 居る 要る 色 いろいろ いろり 岩	亥 いいかげん 板の間 一度 一方 いのしし いや<感> 入り口		いまいま しい			いちもく さん	一番のり		いいとも 行きたがる いくじなし 石ころ 一軒家 痛さ 糸車 いたずらもん いたたっ<感> 板戸 痛める いちご(物語の締 めの言葉) 一日 一年間 いちばん 一列 一枚 一羽 いつか 一軒 一頭 いつの間にか 一発 一匹 一歩 一本 今ごろ 今にも 今まで いやいや<感>
	37個	8		1			1	1		30
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
う	上 植える 浮かぶ うさぎ 牛 後ろ 臼 うそ 歌 歌う うたがう 内 家 打つ 撃つ うっかり 美しい 映る 馬 巧い 生まれる 海 梅 埋める うもれる 裏 売る うれしい	内側		うつらう つら うようよ	打ちあてる		うらうら			卯 有為 恨めしい うさぎくん うさぎさん うち過ぎる 打ち始める うまさ 売りもの うわあい うわあっ うんこ うんと
	28個	1		2	1		1			13
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
え	枝 絵本 えもの 選ぶ	えい<感>			えいやっ					えい(酔い) ええ(=良い) ええ<感> えびっこ
	4個	1			1					4

研究紀要 第36号

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
お	尾 おいしい おいで 王さま 多い おおぜい おかしい おかみさん 沖 起きる 置く 奥 おくれる 治める 怒る おいしい おじいさん 教える 和尚 遅い 恐ろしい 落ちる 音 下りる 弟 踊る 落とす 驚く おなか おなじ おに おばあさん 重い 思う おもしろい 重たい 泳ぐ 折る 居る 俺 下ろす 終わる	おい<感> おいかける 追いつく おう<感> 大きい 大みそか 大むかし 押し入れ おつむ 思いつく 思わず おや<感>						王かん 大判		おいおい (=泣く) <感> おいしさ おうい<感> おうおう<感> お家 おお<感> 大いのしし 大いびき 大男 大川 大きな 大年の市 大にぎわい 大よこび お飾り お菓子 お方 起き上がる お気のどく お客 お客さま 奥山 おくれ (=ください) 桶屋さん お米 お先 おしまい お正月 お正月さん 和尚さん お城 お宝 お茶 お茶飲み 落ちるうっ 落っこちる おっちら おとっと お寺 お堂 お隣 お殿さま お泊まり お友だち おどりだす 鬼たち お話 おひめさま お札 お守り札 おむすび お目 おめえ 思い切って おもしろえ おやおや<感> お湯 泳ぎ回る およめ おら (=俺) お礼 オロチ退治 追われる
	42個	12						2		63
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
か	海岸 買う 帰り 帰る 変える 蛙 顔 抱える 輝く 掛かる 垣根 限る 書く 掻く かくす かくれる 陰 崖 掛ける 駆ける 囲う 笠 菓子 かしげる かしこい 貸す 数 風 数える 肩 方 固い かたかな かたき 勝ち 恰好 悲しい 蟹 かぶせる かぶる かまう がまん 髪 雷 噛む 瓶	かき集める かけ声 かたがわ がっかり かみつく 鴨	欠ける 形見 かまえる かんたん 花粉	合戦				担ぐ		貝合わせ 海水 買える かか (=嬢) 掻き落とす 駆け込む 駆け出す 駆け抜ける 駆け回る かけら 笠こ 傘屋さん ガチャン 蟹さん かぶさる 蒲 かます (=吠) 神様 神様たち 雷さん 鴨撃ち 体じゅう ガラガラガチャン がらがらと 空機 からみ合う 刈り取る 枯れ木 ガワガワ 元日



小学校国語教育における基礎的素養の考察(2) 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について①

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
か	からかう 体 軽い 川 皮 かわいい かわいそう 川上 乾かす 乾く 川下 瓦 変わる 考える  60									かんぶく  36
き	気 木 消える 聞く 聞こえる 木こり 岸 杵 きのう 牙 決まる 君 肝 気持ち 急に 今日 競争 兄弟 行列 切る きれい 切れる 金 近所  24個	雉 岸辺 きびだんご キャッツ 切り落とす 切れ目 きよきよ  7			切り裂く	黄色い				キーカラカラ キークルクル ギギギー 木こりさん 木こりども ギシ ギシギシ 競い合う きつうん 君たち 切らす 切り始める  12
く	ぐあい 杭 食う 揃くすぐったい 崩れる 糞 下さる 下る 口 国 首 熊 雲 くやしい 位 暗い 暮らし 比べる 来る 暮れ 呉れる 黒い 苦勞する 鍬  25個	グツグツ ぐっすり ぐっと くりかえす くりくり ぐるぐる ぐるりと  7	くるまる  1							食える 草花遊び 崩れ落ちる グツ くねくね くねらせる 配り歩く 組上絵 くらべっこ くりょう(=呉れよう) 苦しまぎれ くるりくるり 暮れかかる 暮れかける 食わせる 食われる ぐんぐん  17
け	毛 獣 けれども 元気 げんこつ  5個	毛皮  1	けっこん  1					下界 けっそう  2		けなさい(=ください) けふ(=今日) 蹴りつける ける  4
こ	子 声 こう 越える 苔 ここ 心 腰 こしらえる 小僧 答える ごちそう こちら こっそり 御殿 こと 言葉 子ども この ごはん 独楽 困る 米 ごめん 小屋 こらえる これ 頃 転がす 転がる 転げる 今度 こんな  5	こいつ こさえる ござる こっち ころころ ころり こわごわ 今夜 コツン  5	好み こぶし  1	このまま 小判  1	小高い  1					こう(=来い) こういう こうして こき使う 御形 刻々 ごくり ごくんごくん ござらっしゃる 五升 ゴチゴチ ゴチン こつち 五人 ごびごび 小箱 小舟 ごほうび ごらん こりゃあ<感> これこれ これは<感>  5

研究紀要 第36号

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
こ	33個	9	2	2	1					ゴロゴロ ごろしょ ころりん ころん こんにちは ごんぼ (=ごぼう) 28
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
さ	24個	6		1	1		1			さあっと さあて ざあらざら さいづち さけた (=物語の縮めの表現) 叫び声 挿す 授かりもん ざっくざく ざっくざっく ざっこ サメさんたち サメたち される される<尊敬語> ザンザカ ざんざら 三匹 三人 三枚 20
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
し	34個	7	1		1					じいさま じいさん しお水 しかたない しかたねえ じさま 地蔵様 したら しっしっ してみると しばりつける 縮め直す しもた シャリンコ シャラレコ シャン 十個 十五羽 十番 十一番 十二番 十二番目 十二匹 十六 しょう (=背 負う) 正月買もん じよいやさ しよっぱい 白うさぎ 29
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
す	19個	7	2						1	すうっ ずうっ すかさず 杉の木 すげ すずしろ すずな ずっさん すっとん 砂 砂山 すばんすばん すべえ すべりこませる ずらっと ずんと 16
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
せ	5個	2	2							せな (=背) 背中 洗濯する 3

小学校国語教育における基礎的素養の考察(2) 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について①

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
そ	そうじ そうして そこ そこで そして そっと 外 その 側 染める 空 櫃 それ それで そろえる そろそろ そんな	そいつ そう そのうえ そのうち それから それなら		そんなら		そびえる				そい (=それ) そういう そうら<感> そのかわり そのへん そりゃ それ<感> それっ それでも ぞろっと そんなら
	17個	6		1		1				11
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
た	たいこ 大根 退治 大事 たいした だいじょうぶ 大そう 大変 倒れる 高い 互いに たがやす 宝 炊く たくさん 出す 確かに 尋ねる たちまち 叩く 立つ 建つ たった 建てる 立てる 谷 たぬき 楽しい 頼む 束 束ねる たび (=度) 旅 食べる 卵 だます ため たまらない 黙る 足りる 誰 俵 だんご	助かる 助ける たっぶり たてがみ 立て札 確かに たまげる ためいき だんだん (=次第に) 段々	対する 大漁 ただよう	たが (=箍)	大蛇 訪ねる	だいが 給う				ダーン 退治する だが だから 宝物 竹馬 竹とんぼ 立ち向かう 辰 だっこする 谷奥 たぬき汁 搦る ためし (=例) だめだめ
	43個	10	3	1	2	2				15
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ち	血 小さい 違う 力 茶わん ちゃんと ちょうど ちよっと 散る	近づく ちっとも ちやいる								違いない 小さな 近く 縮める 茶釜 ちゃぶちゃぶ チャリン 長者どん ちらり チリン チン
	9個	3								11
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
つ	つい 使う つかまえる つかむ 月 次 付く 着く 点く 吐く 作る 付ける 伝わる 土 つつみ 綱 つながる 角 漬す つぶる 漬れる 妻 積む 摘む 冷たい 詰める 積もり 強い つる (=蔓)	土けむり 浸ける 突っ立つ つまらない つらら つれて	常 つぶやく	つきあい つむじ風 つるぎ (=剣)			紡ぐ			つぎはぎ 突き抜ける 漬け菜 積み重ねる 連れ立つ つかみかかる つんぶく
	29個	6	2	3			1			7

研究紀要 第36号

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
て	ていねい できる 手伝い 鉄砲 てっぺん 手ぬぐい 寺 天  9個	でっかい では  2		手洗い  1						出かける 手つき 鉄砲玉 出刃包丁 でも できる でん  7
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
と	戸 どう どうして どうぞ とうとう 動物 どうも 遠い 通り とがる 時 解く 研ぐ どこ ところ ところが 年 戸だな 土地 途中 どちら とても 届く どなた となり どなる どの とびら 飛ぶ 止まる 泊まる 友だち 寅 酉 取る 採る 捕る 泥 どんどん どんな  40個	どうしても どうやら 通りかかる どっち 土間 とりかえる とんでもない  7	同時 年越し 唱える  3	とたん とつぶり 殿様  3	どっこいしょ  1					どうした 動物たち どうにか どうにも 戸口 どさり どじょっこ どしん どすん ドタンバタン ドドン 飛ばす 飛び起きる 飛び下りる 飛び込む 飛び出す 飛び立つ 飛び乗る 跳びはねる 止め方 止める 泊める 留める ドドーン どっとはれ となりどうし 泥だらけ ドンゴロ とんで出る トントン とんぼり  31
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
な	無い 中 仲 流す なかなか 仲間 流れる 泣く 殴る 投げる なさる 無し なぜ 夏 なでる 鍋 名前 涙 並ぶ 並べる 縄 為る なるほど 何  24個	なあに なんで 何度  3		なんべん  1	なんとも なんにも 2				なずな  1	ながあい 長さ 仲良く 泣き泣き 泣く泣く 殴りつける 投げ込む 投げつける なじょ 七草 七番目 なに<感> 何か 何やら なんと なんと (=何を言うか) なんとか 何回 なんじゃい なんだ なんの なんのなんの 何羽  23
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
に	兄さん 煮える におい 逃がす 賑やか 握る 逃げる 西 荷物 にわとり 人間 にんじん  12個	逃げ出す 日本一  2								兄さんたち 逃げ込む 逃げのびる にこにこ顔 二番 二匹 にほふ 二十五本 二、三本 人間たち  10
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ぬ	抜く 盗む 沼 濡れる  4個									拭う  1

小学校国語教育における基礎的素養の考察(2) 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について①

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ね	寝かせる 猫 ねずみ 寝る  4個	寝転がる 寝転ぶ ねどこ ねぼう ねぼける 眠い 眠る  7								ね (=子)  1
の	覗く 残す 残る 伸ばす 登る 飲む 乗る  7個	のっそり 乗り込む  2						飲み干す  1		軒下 のっしのっし のたうつ 野っ原 飲み下す のんのん  6
は	葉 ばあさん はい<感> 灰 入る 生える ばか 箸 走る 端 柱 はじめ 始める 苦 恥ずかしい はずみ 裸 畑 働く 花 鼻 話 話す 跳ねる 早い 速い 腹 春 張る 晩 番  31個	ばかに 羽子板 はじける ぱっと 花盛り 浜辺 はりあげる はり紙 バリバリ  9	刃 はかま 剥がれる 剥ぐ  4	剥ぎ取る はて<感>  2	はさむ  1			はこべら  1	はあ<感> ばあさま 這い上がる バカバカ ばさま はじき飛ばす 初めて 外れ バタバタ ばちばち 八十人 八人 ばっさ(=ばあさん) ばったら 花さかじい 花さかじいさん 話し始める 跳ね上がる ははあっ ははあん ははん 話し始める 花とり バリリ  24	
ひ	火 日 冷える 光 引く 一つ 髭 額 左 びっくり 羊 引っかかる 引っ張る 人 ひどい 一人 百 開く 捨う 広げる びんぼう  21個	引きずる 引き抜く ひょい ひょっこり ひりひり  5	ひのき ひふ 秘密  3							びいん ビーン ひかれる 挽き臼 火こ ピチン 引っかき回す ひと足 ひと臼 人たち ひとつ(= どうか) 一つ 一晚 ひと眠り 一目 一人ずつ 一椀 ひゃあ びよこん びよん びよんびよこ びよんびよん  22
ふ	ふいに 夫婦 深い 吹く 袋 無事 ふしぎ 札 二つ 二人 縁 ぶつかる ふと 太い ふところ 太る ふとん 舟 吹雪 踏む ふもと 冬  ふもと 冬	ふりむく ふわふわ ぶんぶん  5	ふさわしい  3	踏み込む  2			ふきっさ らし  1		吹き上げる 吹き出し 吹き出る 藤づる 二椀 ぶち抜く ぶつか ぶっ倒れる ぶつつける ぶっぱなす ふみ入る 踏みつける  24	

研究紀要 第36号

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ふ	ぶら下げる 降らす 振る 降る 震える ふるしき  28個		1		1			1		踏み鳴らす 振りまく ぶり 振り乱す 無礼者 風呂桶 ふわっと ぶんぶく茶釜  20
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
へ	蛇 部屋 変 便所  4個	へとへと								へえ へえい  2
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ほ	穂 ほう (=方) 棒 方法 吠える ほか (=外) 僕 ほしい 干す 程 ほとんど ほとり ほめる 掘る 本当  15個	ほおずき ほおばる ほっと ほら			ポカポカ					ほああっ 坊様 ほうら ほうれ ほおべた ほかっ ポキン 僕たち 僕ら ほこりだらけ ほしたら 仏の座 ほほ 掘り出す ほめたてる ほれ<感> ポン ほんさま (=坊様) ほんと 本当に ほんに  21
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
ま	間 前 撒く 曲げる 先ず 負ける まことに また まだ またがる 町 待つ 松 真っ赤 真っ暗 まったく 窓 まね 魔法 ままごと 守る まるで 回す 迷う 周り 回る  26個	まあ 真っ白い まもなく	舞い上がる 勝る	真水	守り札 まんまと					毎年 毎晩 まいにち まかり出る まきかける まき散らす 枕元 祭りばやし まねごと 豆粒 真夜中  11
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
み	右 みごと 水 みすぼらしい 店 見せる 道 見つける 見舞い 耳 見る  11個			身軽						目 見上げる 見える みえる (= 思われる) 水袋 水辺 味噌樽 道ばた 三つ 見張り番 見回す みるみる みんな  13
	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
む	向かう 迎える むかし 向く 剥く 向こう 結ぶ 娘 夢中 胸 村  11個	向こう岸 むりやり		むかで	むしゃく しゃ 武者ぶる い					向こう側 むしり取る 結び直す 結び目 娘さん 村人  6

小学校国語教育における基礎的素養の考察(2) 伝統的な言語文化に関わる教材の語彙について①

	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし
め	目 1個	目がける 目玉 2		名案 1						恵まれる めったやたら 2
も	もう 申す 燃える もし 餅 持つ もっと 元 戻す 戻る 物 者 桃 燃やす もらう 門 16個	持ち上げる 餅つき ものすごい 3	もてなす 1						もっこ 1	もうもう もこもこ もぞもぞ 餅こ 元通り も一つ もん (=物、者) 門番 8
や	やがて 役 優しい 休む 奴 八つ やっと やっぱり やぶ 破く 山 屋根 やる 13個	やあ 屋敷 やっく感> 山奥 やれやれ 5			山芋 1					やってくる やっこさ 破れ障子 山里 山んば 病める やれ<感> 7
ゆ	夕立 雪 ゆする 夢 ゆるむ 5個		勇敢 1	タベ 1						夕めし ゆわえつける 2
よ	世 良い 用意 ようやく 嫁 喜ぶ 読む 7個	ようこそ よくばり 呼ぶ 呼びかける 4	よく (= 充分に) 1		よっぱらう 1					用意する ようしく感> 翌朝 よっちら 夜中 呼び集める 喜び勇む 7
ら	楽 1個									乱暴鬼 乱暴者 2
り	立派 料理 2個									陸地 漁師 2
ろ			論 1個							六番目 六人 2
わ	沸かす 分かる 脇 湧く 訳 忘れる 私 渡る わっ わな わに 笑う 悪い われわれ 14個	ワンワン 1	我が わざと 2		若い衆 1					技競べ わし (=自 分) わしわし 私たち わにくん わにざめ わにさん わにたち わやわや わらわら わりい (=悪い) 割れる ワン 13

\*「る」「れ」「を」は該当語なし。

音別語彙数一覧(表3)

\*数字はその段階の語彙数。空欄の場合は語彙の数は0。

音	A 1	A 2	B 1	B 2	B 3	C 1	C 2	C 3	C 4	分類なし	合計												
あ	5	1			1				2	1	8	7	9										
い	3	7		1			1	1			3	0	7	8									
う	2	8		2	1		1				1	3	4	6									
え	4		1		1						4		1	0									
お	4	2	1	2				2			6	3	1	1	9								
か	6	0		6	5	1			1		3	1	1	0	4								
き	2	4		7		1	1				1	2	4	5									
く	2	5		7	1						1	7	5	0									
け	5		1						2		4		1	3									
こ	3	3		9	2	2	1				2	8	7	5									
さ	2	4		6		1	1		1		2	0	5	3									
し	3	4		7	1		1				2	9	7	2									
す	1	9		7	2					1	1	6	4	5									
せ	5		2								3		1	2									
そ	1	7		6		1		1			1	1	3	6									
た	4	3	1	0	3	1	2	2			1	5	7	6									
ち	9		3								1	1	2	3									
つ	2	9		6	2	3			1		7		4	8									
て	9		2		1						7		1	9									
と	4	0		7	3	3	1				3	1	8	5									
な	2	4		3		1	2			1	2	3	5	4									
に	1	2		2							1	0	2	4									
ぬ	4										1		5										
ね	4		7								1		1	2									
の	7		2					1			6		1	6									
は	3	1		9	4	2	1			1	2	4	7	2									
ひ	2	1		5	3						2	2	5	1									
ふ	2	8		3	1		1			1	2	0	5	4									
へ	4		1								2		7										
ほ	1	5		4		1					2	1	4	1									
ま	2	6		3	2	1	2				1	1	4	5									
み	1	1			3	1					1	3	2	5									
む	1	1		2		1	2				6		2	2									
め	1		2		1						2		6										
も	1	6		3	1					1	8		2	9									
や	1	3		5		1					7		2	6									
ゆ	5		1		1						3		1	0									
よ	7		4		1	1					7		2	0									
ら	1										2		3										
り	2										2		4										
る																							
ろ					1						2		3										
わ	1	4		1		2		1			1	3	3	1									
を																							
合計	7	9	5	1	7	1	3	8	2	4	2	2	4	4	8	6	5	7	6	1	6	4	8
割合	48.2		10.4		2.3		1.5	1.3		0.2		0.2	0.5		0.4		35.0						



## 2 考察

調査結果から次のようなことが言えよう。

### ① 低学年の重要語句(特にA1段階の語彙)が多く含まれている。

全1648語のうち795字がA1段階の語彙であり、他の段階の語彙数と比べて、最も多い。これにA2段階の171語を加えると、58.6%となり、全語彙数の6割近くがA段階のものとなる。

また、分類なしの項には複合語、接頭辞や接尾辞が付いたもの、話し言葉や方言などが多数仕分けられている。これらを、元の単語に分けたり(打ち始める→「打つ」「始める」)、接頭辞や接尾辞を外したり(「お菓子」→「菓子」, 「うさぎさん」→「うさぎ」)、書き言葉に集約する(「わりい」→「悪い」)などすると、さらにA1段階の語が増え、使用の割合も高くなる。

各教材の筆者の配慮で、低学年向けに吟味された語が用いられていることが分かる。しかしながら、高学年のB段階の語が合わせて5.1%、中学校の基本語彙であるC段階の語も1.3%含まれている。したがって、指導に当たっては、このことに配慮しつつ適切に丁寧に進めていく必要がある。

### ② 興味・関心を引き出す語彙が使われている。

第1学年及び第2学年の伝統的な言語文化に関する指導事項は、

「昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること」であった。

この学年の子どもたちが聞いたり発表し合ったりする学習に興味をもって楽しく取り組めるようにする工夫が、語彙の面でも見られる。一つは、リズムカルな繰り返しの表現である。例えば「おむすびころりん」(光村)では、「すっとなんと とびこんだ」「おむすび ころりん すっとなんと」「ころころ ころりん すっとなんと」というように、「すっとなんと」という語が13カ所で繰り返されている。

次に、擬声語や擬態語の効果的な使用である。前記の「すっとなんと」もそうであるが、「じょいやさ じょいやさ」(「かさこじぞう」学校図書他)「わやわや」(「天にのぼったおけやさん」教育出版)など、ふだんよく使用される表現ではない言葉で音や様子が表されている。子どもたちには新鮮な響きである。

三つ目は、お話の最後の部分に使われている締めの語である。意味は分からないが記憶に残るおもしろい言葉として、子どもたちの興味を引き出していると考えられる。「どっとはれ」(「三まいのおふだ」光村図書)、「いちご さけた」(「まのいいりょうし」光村図書)などである。

### 3 今後の研究課題

#### ① 他の学年の教材の語彙の分析

今回は低学年の教材を対象にしたが、中学年や高学年の教材ではどのような語彙が使われているのか、取り出して分析していくことが課題になる。その結果を今回のものと合わせ、伝統的な言語文化に関わる小学校の教材全体の語彙をとらえていく必要がある。

#### ② 指導のあり方の工夫

低学年の子どもたちにA段階の基本語彙を確実に身につけさせるにはどうすべきかを、まず考えていきたい。また、教材に含まれていたBやCに分類されている上位段階の語彙の意味や用法を子どもたちに理解させ、無理なく上手に活用させていくことも、考慮していく必要がある。

### 4 注、引用、参考文献等

- 1) 鈴木健一「小学校国語教育における基礎的素養の考察(1)」千葉敬愛短期大学紀要  
第35号 p121 平成25年
- 2) 前掲書 p105～115

- ・阪本一郎『新教育基本語彙』昭和59年 学芸図書株式会社
- ・『みんなと学ぶ小学校国語』一年、二年 平成23年度版 学校図書
- ・『国語』小学校国語科用 一、二 平成23年度版 光村図書
- ・『小学生の国語』一年、二年 平成23年度版 三省堂
- ・『小学生の国語 学びを広げる』二年 平成23年版 三省堂
- ・『ひろがる言葉 小学国語』1, 2 平成23年度版 教育出版
- ・『新しい国語』一、二 平成23年度版 東京書籍